

日時：令和4年10月27日（木）午後3時30分～午後5時

委員：大塚 耕司 委員（大阪公立大学教授）
中西 洋 委員（大阪市立阪南中学校校長）
森田 英嗣 委員（大阪教育大学教授）
森本 哲弘 委員（住吉高校後援会会長）
篠原 宏明 委員（住吉高校PTA会長）
逢坂 昌也 委員（ベネッセコーポレーション）

1. 学校長挨拶（中山玲代校長）

100周年記念行事が今週末になった。

コロナは完全に収束してはいないものの、行事は復活のきざしがみえている。

本日は進捗状況のご報告を中心に、ご意見を頂戴したい。

2. 出席者紹介

委員6名全員の出席をいただいた。

3. 会長挨拶

大阪公立大学においても、日常が戻りつつある。

公立大の特別選抜が2年目となり、昨年より増加した。学校推薦の応募からみると、大学に対する認知度が上がっているようだ。

4. 今年度の本校の取り組みと課題等について

（1）令和4年度学校経営計画の進捗状況（学校長）

- ― ・教員の授業力向上策として Step Up Labo と銘打って教員相互の授業見学を実施。
スクールミッション（案）

（2）総合科学科の取組みについて（大門総合科学科長）

- ― ・SSHⅢ期最終年度。それまでの総括とSSHⅣ期申請
・SS科学Ⅲの振興策

（3）国際文化科の取組みについて（秋本国際文化科長）

- ― ・共用iPad20台の利用が進み、不足しがちな状況。

（4）国際部の取組みについて（西本国際部長）

- ― ・台湾中山女子高級中學との交流はオンライン実施。
・ケンブリッジ研修実施の方向で進めている。

（5）教務部の取組みについて（加藤首席兼教務部長）

- ― ・1年生の観点別学習状況による評価の示し方の検討。

（6）進路指導結果及び今年度の取組みや目標について（三石進路指導部長）

- ― ・令和4年度入試の共通テスト出願状況。国公立大学進学志望者増加。
・模試分析会の進め方改善検討など。

（7）生活指導部の取組みについて（杉本生活指導部長）

- ― ・遅刻指導件数、昨年度より若干減少。ワークシート形式による指導に切り替えている。
・頭髪指導のあり方を検討中。
・交通安全講習会を実施予定。

・自治会の取組みについて（大浦自治会主担）

- ― ・学園祭を2日開催に戻し、生徒の家族に限り招待とした。
・学園祭の細則見直しを検討中。

5. 質疑と協議

○ 篠原委員

- ① 学園祭、探究フェスティバル中間報告会に関して。コロナ禍を経て、生徒の様子を見ることができるようになってきた。学園祭は、コロナの制約によると思うが、内容面で似たものが多いと感じた。探究フェスティバルの方は、人前で発表など将来に役立つ取り組みだが、他校の発表に比べ、統計をとっただけにとどまっているものもあり、堂々と発表できていない生徒も多い。3月に期待

している。

- ② 頭髪に関して。金髪にしている生徒に対しては、社会にもルールがあるわけだから、高校でそのルールを守ることを教えるのも必要ではないか。金髪の生徒にワークシートのようなものを与えるなどして、社会にもルールがあることを気づかせてみてはどうか。
- ③ 定期考査について。中間考査でも依然として平均点が上がっていない。成績不振の生徒の底上げが必要ではないか。取り残されていると感じをもっているかもしれない。
- ④ 部活動について。住高には強豪とされる部活が見受けられない現状にあって、顧問の先生が先頭に立って活性化できないものだろうか。高津高校の学校説明会では先生の方から熱心にクラブの勧誘をしていた。部活を通じて受けた指導は、大人になっても印象に残っている。生徒の自主・自律を重んじる校風も大事だが、高校生は未熟なところもあるので、先生が教えてあげてほしい。

→ 大浦主任

学園祭は、状況が許せば調理を認めるなど、コロナ前の学園祭の形に戻していきたい。

大門科長

発表のスキル向上については、時間の制約があり難しい面もあるが、できるだけ機会をつくらせて指導していきたい。

杉本部長

ルールを守るという規範意識を育てることは必要であるが、頭髪のような個別事案の指導は、規範意識の醸成とは別問題と認識している。校内で頭髪指導をする場合、教員間のコンセンサスを前提に校内でルール化しなければいけないが、多様な意見が存在し、住高としての意味づけがはっきりしない。

加藤首席

定期考査の不振者に関しては、成績会議などで情報共有している。実際の指導に関しては担当者の裁量によるところが大きく、改善の余地はあるかもしれない。

大浦主任

部活動については、入学時に体験入部の期間を設けて、加入を勧めている。部活で期待される技術面の指導は教員の能力には限界があり、学校全体の取組みが求められる。

中山校長

技術指導では体育科の教員がリードするのが一般的だが、本校は5名と少ない。教科指導も部活指導もできる教員を集めるのは、人事的に難しいのが実情。

○ 森本委員

私がPTA会長をしていたときは、ラグビー部にコーチが3人いて、先生ではない方がしておられた。同窓会に協力してもらえないだろうか。

○ 逢坂委員

取り組みのご報告を伺っていると、探究活動と進路指導と連動させるといったように、もっと分掌間でのつながりをもたせてもいいのではないかと思う。一つの方向性としては、スクールミッションでコアの部分を守り、それを基に教育活動を連動させていくということがある。

→ 中山校長

総合科学科と国際文化科のつなげる探究活動に目を向け始めたところだ。SSHIV期の申請のスローガンは「まきこむ探究活動」。来年度、探究活動推進委員会を立ち上げる。もっとできることがあると思う。

○ 森田委員

策定中のスクールミッションに関して。自治会、PTAなど幅広く共有することによって、いろいろな課題の解決の指針ともなり得る。

→ 中山校長

お示ししている素案は、新しいことを求めるより、現在の取組みを発展させたいとの思いで作っている。

○ 逢坂委員

現在の取組みのいわば「棚卸し」、「交通整理」に近いというのは理解できる。3観点に関連づける形でまとめられたらいいものになるだろう。私の知る範囲では、探究活動に熱心なのは、青森高校（青森県）、湯沢高校（秋田県）など東北地方にみられる。関西では神戸大付属。

○ 中西委員

朝、北畠駅近くの交番前で立ち番をしていると、住高生の学びに対する真摯な態度を感じる。前向きで意欲をもって学校に来ている雰囲気が出ている。対話的な学びが強調されているが、子どもたちは一生学び続ける。教育する側も生徒に達成感をもたせる、学んだことが活かせる「楽しい」活動が求められる。

中学でも校則の見直し（点検、検討）が進められている。文科省も「子どもに考えさせる」というように、校則の見直しは、現場に混乱が生じないように配慮しつつ、子ども、保護者にとっても考える機会としたい。

○ 大塚委員長

頭髪の問題は、前回の協議会でも出されたと思うが、生徒を交えて議論することも考えられる。

→ 杉本部長

生徒の多数意見に流されて、人権的な配慮に欠く事態になってはいけない。校則は教育者の視点から定めるべきと考えている。

○ 中西委員

確かに、子どもの意見がどう流れるかは予測がつかない。子どもへの意見の聞き方やタイミングは慎重に検討すべき点である。

○ 大塚委員長

生徒の意見をそのまま反映させるのではなく、人権に関わる部分を明確にして、その点を生徒に考えさせるべきだと思う。スクールミッションにも「人権感覚を有し」とある。スクールミッションの浸透にもなるのではないか。

→ 杉本部長

学年生指担当だったときの経験では、生徒に納得させるために相当対話的な指導をしたが、頭髪のような（生徒が自由にしたいと思うような）問題に対する生徒の反応は、たいてい「しない」と結論づけられる。生徒の意見を聞くのを手続き化してしまうと収集がつかなくなるのではないかと、不安である。

○ 大塚委員長

頭髪指導以外からでもできるところ（コンセンサスの得やすいところ）から。

→ 杉本部長

スマホの使い方とか。

○ 森本委員

i p a dの件、後援会でできることがあれば、協力させていただく。

6. 次回開催

第3回 令和4年2月22日（水）15時30分から

7. 校長謝辞

100周年記念行事が無事終了を願っている。ブログを随時更新しているので、ご覧いただきたい。